

## 今後の活動に向けて

地域共創センターでは、「地域調査・研究」「公開講座」「地域連携活動」を中心に、センター機能の充実を目標に活動していきたいと考えています。特に、できるだけ多くの地域の皆さんにセンターを利用いただくために、ウェブページを活用するなど、センターの業務内容に関する情報発信を活性化します。また、各種依頼や申し込みに関する窓口機能を整備して、利用される方にとってわかりやすいセンターにしていく予定です。今後とも地域共創センターの役割を果たすために、地域の皆さんのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

### Information

#### 地域調査研究部門

##### 1. 地域共創研究

■本学教職員から単年度完結の企画を募集し、テーマなどを審査して採択しています。本学職員の共同研究を促す制度として唯一のもので、研究備品費と研究旅費を助成しています。その成果は成果報告会で公開されるとともに、新しい定期刊行物『地域共創センター年報』に論文として掲載します。

##### 2. 関門地域共同研究

■北九州市立大学との共同研究です。行政区画を超えた「関門一体」を研究対象にする、というユニークな共同研究です。両市と双方の市立大学の思惑が一致してこの研究会の結成となったのです。必要に応じて地元や近隣から委嘱研究員を招聘しています。

##### 3. 国際共同研究

■本学と友好交流協定校である青島大学間で2004年度から行っていた「国際共同研究」の成果発表としてセンター年報・創刊号で報告しました。また、釜山・東義大学校との国際共同研究開始のシンポジウムを行い、今後は両学で交互に開催することになります。

##### 4. 自主調査研究

■センター発足にあたり、調査研究部門のスタッフは地域調査研究のコーディネーター集団に衣替えしました。コーディネーターが企画し、調査研究プロジェクトを提案します。調査研究スタッフを編成して、調査研究プロジェクトの進行を補佐します。

##### 5. 受託調査研究

■地域課題について調査研究の依頼があれば、コーディネーター集団が開始します。また、プロジェクト化の可能性を図り、対応いたします。

##### 6. 自主資料収集

■市民団体発行物や下関市内商工会文書等の資料収集を進めていきます。

### Information

#### 地域教育活動部門

平成24年度開講予定の講座です。企画が出来次第、ご案内いたします。

##### 市民大学

- 公開講座  
開放授業・教養総合A「愛の諸相」  
・地域論（仮）
- 出前講座
- テーマ講座

### 出版物のご案内



センター年報



ディスカッション  
・ペーパー



関門地域研究



ニュースレター



資料室だより



唐戸サテライト  
キャンパス

### スタッフのご紹介

#### □地域調査研究部門 研究員

横山 博司  
杉浦 勝章  
金子 肇  
藪内 賢之  
森 邦恵  
菅 正史  
中川 圭輔

#### □地域教育活動部門 コーディネーター

横山 博司  
武井 満幹  
叶堂 隆三  
佐藤 隆  
西戸 隆義

#### □アーカイブ部門 研究員

横山 博司  
濱田 英嗣  
櫻木 晋一  
吉津 直樹

### 編集後記

地域共創センターを開設して4年が経ちました。大学と市民の協働・共創活動の情報集約を行い、市民と大学をつなぐ窓口としての役割を担っています。今後も地域とのつながりをもっと深めていく拠点として活動を行って参りますのでご支援いただけますようお願い申し上げます。  
この「地域共創センターニュースレター」などを通して、学生・教職員と市民との交流・連携の輪を広げて行きたいと思っています。（Yo）

スケジュールの詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

## 地域共創センター ニュースレター

発刊◆2012年3月31日 発行◆下関市立大学附属地域共創センター（本館Ⅱ 2階）  
〒750-8510 山口県下関市大学町二丁目1-1 ◆chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp  
TEL◆083-254-8613 FAX◆083-253-1622 URL◆http://www.shimonoseki-cu.ac.jp

# 地域共創センターニュースレター

2012  
Vol.4

下関市立大学附属地域共創センターは、大学人(法人職員と学生)と地域の方々との協働で地域資産を掘り起こし、地域課題を見出して、その課題解決に取り組むことを目指します。

### あいさつ

「共創による大学づくり」を目指して、下関市立大学は、平成20年度に、地域共創センター設立しました。平成21年度には、大学と地域の更なる連携を深めるための前線基地として、唐戸サテライトキャンパスを開設しました。地域共創センターは、平成23年11月に、新研究棟の開設に伴い、新たな施設に移設しました。今後は、ここを拠点に活動を展開していきます。地域の問題に取り組む地域調査研究、公開講座等を通しての地域教育活動、鯨や河豚といった地域資料の収集・研究を3つの柱として活動を展開していきます。地域シンクタンクとして、多くの方々に期待されるよう活動を続けていきたいと思っています。地域の方々にも、積極的に活用していただくことを願っています。

下関市立大学附属地域共創センター  
センター長 横山 博司

公立大学法人  
下関市立大学  
Shimonoseki City University  
Shimonoseki City University Institute for Collaborative Community Development Newsletter

公開講座

- 西田教授の倫理学ゼミナール
そうだったのね! 韓国
十八世紀イギリス小説と結婚
経営の基本
漢詩歳時記
東日本大震災の復興とガバナンス
経済学から見る人間の姿
都市の中の「ムラ」の形成
下関のフグブランド戦略
ストレス社会を生き抜くために
衰退過程にあるのか日本経済
下関の女流文人・田上菊舎の漢詩管見



授業公開

- 教養総合「外国語教育: 教え方、習い方」
地域論



テーマ講座

- 公共マネジメント学科新設記念特別公開講座
『20年後の下関を考える』



共創サロン

センターの共創サロンは職員相互の話題交換を目的としたものですが、学外の方との交流の場にする事も検討しています。

- 第1回 2011年5月26日(木)
第2回 2011年7月28日(木)
第3回 2011年11月17日(木)
第4回 2011年12月6日(木)



- 自主事業
関門共同研究

地域インターシップ関連

菊川町東中山公会堂 東中山地区連携協議
日時: 4月4日 担当教員: 吉津 直樹



- 下関神田川河口付近 瀬戸内海岸の巡検
菊川町集落 菊振りピン詰め加工体験
栗野公民館 栗野しろお青のり祭実行委員会
長門市俵山地区 田植体験と地域交流
栗野小学校 栗野小学校プール清掃作業
長門市俵山地区 シャクナゲ園の花柄摘み支援・交流会
菊川町集落 いも苗植え付け・もち米苗植え付け・交流会



- 旧栗野保育園・栗野川中流域
栗野を知ろう・ほたる鑑賞ナイトウォーク
菊川町東中山地区 東中山俳句ラリー・浄国寺



- 菊川町集落 第1回子ども塾 貴和の里につどい会参加支援
菊川町集落 第2回子ども塾 地域探検と水鉄砲づくり
菊川町集落 第3回子ども塾 貴和の里につどい会参加支援



- 豊北町栗野地区 夏休み子ども教室
長門市俵山地区 長門市俵山イモ掘りと交流会



- 菊川町集落地区 サツマイモ掘り・交流会参加支援
菊川町集落地区 貴和の里・もちつきと交流会
菊川町集落地区 貴和の里・そば打ちと交流会



- 豊北町栗野地区 栗野行事への参画

平成23年度関門地域共同研究会成果報告会

日時: 平成23年7月4日(月) 14:00~16:30
場所: A1Mビル3階 西日本総合展示場新館314・315会議室
テーマ: 関門地域における『高齢者雇用の現状』 『斜面地居住の課題』

下関市立大学 公共マネジメント学科開設記念シンポジウム

日時: 平成23年11月21日(月) 13:30~17:00
場所: 下関市立大学 233番教室
テーマ: 「地方分権時代の地域社会を展望する」



第4回 鯨資料室シンポジウム

日時: 平成24年2月10日(金) 13:30~16:00
場所: 下関市立大学本館I-206教室
テーマ: 「長州捕鯨の課題と展望」



第3回 ふく資料室 フグシンポジウム

日時: 平成24年3月3日(土) 13:30~15:30
場所: 下関市立大学本館II5階 大会議室
テーマ: トラフグに関するイメージ分析と地域振興の評価



東義大学校・下関市立大学国際共同研究シンポジウムin釜山

日時: 2012年3月30日(金) 14:00~17:00
場所: 東義大学校 国際館306号セミナー室
テーマ: グリーン成長と共生



資料室研究員

- 濱田 英嗣 (下関市立大学大学教授)
櫻木 晋一 (下関市立大学大学教授)
岸本 充弘 (地域共創センター委嘱研究員)

下関市立大学鯨資料室ミニパネル展

- ★日程 平成24年1月28日(土)~平成24年2月3日(金)
★日程 平成24年2月6日(月)~平成24年2月10日(金)

資料室デジタルアーカイブ取材調査

日時: 平成23年9月8日(木)
協力者: 沖吉 明 (下関市綾羅木本町在住)

本学の資料室では捕鯨の従事者への取材を行い、デジタルアーカイブ撮影として記録し資料室の充実を図っています。

※上記氏名敬称略

